

住まいスクール委員会恒例の夏休み企画事業の報告

多くの子供たちで会場を埋めつくした“驚き・発見！ねん土でつくろう夢の家”

神戸支部恒例となった親子事業、今年度もまた神戸市埋蔵文化財センターを会場に、8月1日（土）の午後に開催された。当日は、この事業が始まって以来過去最高の親子32組（定員20組）、総勢75名もの多くの参加者が決して狭くはない会場を埋め尽くした。この思ってもいなかった盛況に、スタッフはその対応に獅子奮闘の中、子供たちが熱心に工作に取り組む姿に元気を得、予定通りプログラムを終えることができました。閉会后、頑張って造った作品を大事に持帰る子供達の笑顔に、この事業に託す思いが少なからず伝わったものと、何時にも増して充実感のある事業となりました。

◆ 大昔の人の住まい

事業の幕開けは、神戸市教育委員会学芸員の井尻講師による講義でスタート。日本における古代人の住まいの原型を、神戸や各地で発見された事例をスライドと会場内の復元住居を目の前に勉強。講師の古代住居に焦点を当てた丁寧な紹介は、子ども達のみならず、企画スタッフにも教えられるところが多く、絵解きで分かりやすいプレゼンテーションなど、良い勉強になりました。

◆ 知っていますか？世界の家いろいろ

ここからが我々スタッフ講師の出番。「夢の家工作」の事前学習として、山際による「世界の家・いろいろ」では、生き物の住まいや世界のいろんな国の家、絵本や世界中のユニークな家の実例をスライドで紹介。工作づくりへのヒント発見とともに、子供達の建築への夢や想いを育てるキッカケづくりにとの思いで用意したものです。引き続き長谷川により、工作に使う家づくりの主材料となる粘土の扱い方や工作用具の使い方など、材料と用具を手にとり説明。また、実際の家づくりに作成された「設計図」の紹介で、建築士の仕事の一端を覗いてもらい、本番の工作に引き継がれた。



◆ 時間も忘れ没頭の「夢の家」工作

工作の前に、夢の姿を「絵」として描いた設計図づくりでは、あっという間に描き上げる子供達のとまどいのなさに驚くばかりでした。本番の粘土工作では、設計図通りに造り上げる子、いつの間にか変身した姿に苦心する子、時間に追われながらひたすら完成を目指す子、親の声も顧みず自分の想いを貫く子など、それぞれの夢がつまった家づくりに一生懸命に取り組む子供達の姿は感動的なものがありました。工作終了後は、完成された作品を並べた「夢の家の街」を観賞。どれ一つとして似たものは無く、個性的な家ばかりなのに意外と違和感のない町に見入っていました。

その後、数人の子供達から完成した「夢の家」の発表があり、木山から作品の講評と夢の家の成果についての総評があり、この工作を通して「想像上の姿を現実の形にすることの楽しさが少しでも分かっていたら嬉しいです」とのまとめと、これからもどんどんモノづくりにチャレンジを！とのエールがあり、「夢の家博士認定証」の授与で閉会しました。スタッフ一同、たくさんの「驚き・発見」を目にし、心地よい疲れのなかで帰路につきました。（M.K 記）